

総合保育技術の実践的研究

—コロナ禍の学びを通して—

A Practical Research Study of Comprehensive Education Skills for Children

- Through Learning during the Covid-19 pandemic

藤澤 明日菜、野田 章子、石多 加代子

要旨 本研究は、「第36回幼児のための『音楽と動きのつどい』」¹の成果と課題の検証を目的としている。研究方法は、本授業終了後に学生に実施したアンケート結果の考察²である。本研究の結果、新型コロナウイルス（以下コロナと略称する）の影響でさまざまなことが危惧された上記のつどいではあったが、学生にとっては貴重な学びの場であったことが分かり、コロナ禍だからこそ学べたこともあったと明らかになった。

はじめに

本研究の目的は、「第36回幼児のための『音楽と動きのつどい』」（以下『つどい』と略称する）について検証し、その成果と課題を明らかにすることである。現在、数多くの保育者養成校において類似の発表会が開催されている。その主旨は、発表までの過程において学生たちが表現力を高め、責任感、自主性、協調性、協働性、コミュニケーション能力などを身に付けること（佐々木・葛谷,2016,p.187）であり、保育者としての実践力の育成と豊かな人間性の涵養を目的としている（林他,2008,p.156）。さらに、それらの活動で得た学びを保育現場で活かすことが期待されている（三好他,2018,p.47）。そこで本研究では、発表までの過程にあたる総合保育技術ⅢおよびⅣの授業と、つどいでの発表に関して受講生に任意のアンケートを無記名で実施し、その結果と記述内容を分析対象にして考察をおこなった。アンケート回答者は、吹奏楽受講者31名中29名、ダンス受講者35名中35名、オペレッタ受講者30名中21名である。アンケート実施期間は、令和3年2月6日～2月20日の2週間で、下記の6つの質問事項についてグーグルフォームで作成したアンケートを用いてWeb上で回答してもらった。

質問1 つどいの経験はどうでしたか。

質問2 つどいの活動(4月～11月)はどうでしたか。

質問3 作品をつくりあげるまではどうでしたか。

質問4 つどいの活動、発表を通して、学んだことや身に付いたことなどがありますか。

質問5 つどいの活動、発表の経験が、今後役に立つと思いますか。

質問6 あなたにとって本年のつどい（コロナ対策、無観客でのつどい）はどうでしたか。

次に以下の点を検証する：1. 吹奏楽の検証、2. ダンスの検証、3. オペレッタの検証。

1. 吹奏楽の検証

1.1 本年の活動の様子

本年度はコロナ禍ということで授業開始時期が通常より1ヶ月程遅かったので、曲を決める時間が非常に短くなってしまった。また例年観客を楽しませる活動を含めたステージ構成としていたが、無観客での発表になった為、どのようにするか決めるのに苦慮した。授業時には、こまめな換気、消毒を徹底し、前日リハーサルと本番では管楽器用の飛沫防止シールド（打楽器はマウスシールド）や、演奏の合間では各個人でアルコール除菌ジェルを用い、除菌を行いながらの演奏となった。そのような状況について、学生達ははじめ不満や不便さを感じていたが、授業の合間に無観客での演出方法について調べていたり、練習期間が短かった分、不得意な部分の教えあいや、個人練習の時間を増やすなどの自主性が多く見られた。本番では学生全体が笑顔で伸び伸びと演奏している姿があり、吹奏楽の本来の目的である集団行動の中での思いやりや協調性をしっかりと感じられた。（写真1）



写真1 本番の様子（吹奏楽）

1.2 アンケート（吹奏楽）の集計結果

表1に、「音楽と動きのつどい」の活動後に実施したアンケート（吹奏楽）結果について示す。

表1 アンケート（吹奏楽）結果

質問内容	回答	回答数	%
1、つどいの経験はどうでしたか	とても良かった	27	93
	良かった	2	7
	普通	0	
	良くない	0	
	非常に良くない	0	
2、つどいの活動（4月～11月）はどうでしたか	とても良かった	10	35
	良かった	12	41
	普通	6	21
	良くない	1	3
	非常に良くない	0	
3、作品をつくりあげるまではどうでしたか	とても苦労した	14	48
	苦労した	13	45
	普通	2	7
	簡単だった	0	
	すごく簡単だった	0	
4、つどいの活動、発表を通して、学んだことや身に付いたことなどがありますか	たくさんある	11	38
	ある	18	62
	わからない	0	
	ない	0	
	全くない	0	
5、つどいの活動、発表の経験が、今後役に立つと思いますか	非常に思う	4	14
	思う	19	65
	わからない	6	21
	思わない	0	
	全く思わない	0	
6、あなたにとって本年度のつどい（コロナ対策、無観客でのつどい）はどうでしたか	とても良かった	1	3
	良かった	8	28
	普通	11	38
	良くない	3	10
	非常に良くない	6	21

有効回答数 29

質問1実施した活動での経験については全体の93%が「とても良かった」と回答しており、残りの7%については「良かった」と回答していた。質問2自身の活動（4～11月）については「とても良かった」35%、「良かった」41%、「普通」21%、「良くない」3%と「良かった」と回答した者が最も多かつ

た。質問3作品をつくりあげるまでは「とても苦労した」48%、「苦労した」45%、「普通」7%と、苦労したという回答がほとんどとなった。質問4活動や発表を通して学んだことや身に付いたことについては、「たくさんある」38%、「ある」62%であった。質問5活動と発表の経験が今後役に立つかについては、「非常に思う」14%、「思う」65%、「わからない」21%であった。質問6コロナ対策、無観客での活動の発表については、「とても良かった」3%、「良かった」28%、「普通」38%、「良くない」10%、「非常に良くない」21%と、「良かった」、「普通」、「良くない」の回答に有意な差は見られなかった。

1.3 考察

表2に、アンケート（吹奏楽）の各質問に対しての回答毎の記述内容（類似する内容はまとめて記載）を示し、その結果に基づいて考察をおこなう。

質問1について、「つどいの経験を通して、聴いている人や見ている人に対して笑顔で演奏する大切さを学ぶことが出来た」や、「初心者で思うように演奏出来なくても楽しいと思える活動だった」とあるように、今年度は吹奏楽未経験の授業選択者が多く、それぞれ不安が大きかったものの、上達する喜びや人前での発表に対しての気持ちの考え方について学ぶことが出来たという回答が多く見受けられた。また、「良かった」という回答ではあったが、「子供たちの前でできていればもっと良かったと思った」など、本来の目標であった幼児の前での発表が出来なかった事に対する不満の面も見受けられた。質問2についても肯定的な回答が多く、「休校や実習で授業がぎゅっと詰まって忙しいと思ったこともあるが練習を集中してできるので良かった」など、コロナウイルス感染拡大によって授業や実習の予定が大幅にずれ込んだ影響による練習期間の短さは大半の学生が感じていたものの、限られた時間のなかでも計画性や協力性の重要性を見出した回答が多く見受けられた。質問3については、「初心者で全く音が出なかった」など、吹奏楽未経験者による苦労したという回答が多く見受けられた。質問4については、「楽器の楽しさを知った」や、「協力する楽しさや達成感があった」など普段あまり触れる機会のない楽器に触れたことから楽器について学ぶことが多かったという回答が多く、吹奏楽という団体での行動が必

表2 アンケート（吹奏楽）の各質問に対しての回答毎の記述内容

※類似する内容はまとめて記載

	回答*	記述内容
質問1	とても良かった、良かった (29)	つどいの経験を通して、聴いている人や見ている人に対して笑顔で演奏する大切さを学ぶことが出来た / 今まで経験したことのないことを経験できて楽しかった / 初心者で思うように演奏出来なくても楽しいと思える活動だった / 初めてのことに挑戦して本当に出来るようになるか不安しかなかったけど出来るようになった / 子供たちの前でできていればもっと良かったと思った
	普通 良くない、非常に良くない	
質問2	とても良かった、良かった (22)	ゆっくり自分たちのペースで練習できた / 楽しかった / 就活前だから / 計画的に練習を進められた / 休校や実習で授業がぎゅつと詰まって忙しいと思ったこともあります練習を集中してできるのでよかったです / もっと練習期間がほしかった / 皆で協力して出来た
	普通 (6) 良くない、非常に良くない (1)	ただでさえ実習があるのに、今年はコロナで練習時間が少なかったから / 実習が始まってバタバタした 練習期間が短かった
質問3	とても苦労した、苦労した (27)	楽器をやったことが無い人が殆どなので1からだった / 初心者で全く音が出なかった / 楽譜を見ないで、指揮者の方を見て演奏できるようにかなり練習しました / 実習を挟んだことで、練習の時間が空いてしまった / 吹奏楽をやったことがなくて息の強さで音が変わるとか音階の指の動かし方とかが難しかった / 楽器を吹くことは難しかったけど楽しかった
	普通 (2) 簡単だった、すごく簡単だった	楽しかった / 高校で担当していた楽器だったので譜読みをして練習していて、友達に教える方が難しかった
質問4	たくさんある、ある (29)	出来ないと放棄するよりも出来なくても必死に頑張った方が楽しい出来るようになるという可能性が広がる / 楽器の楽しさを知った / その楽器について理解できた / 未経験でもここまでできるという自信につながる / 協力する楽しさや達成感があった / 団体の活動だったため、お互いが相手を思い合っただけでカバーしあいながら協力することができた / 失敗を恐れずに続けて演奏すること、演奏を聴いている人や見ている人に笑顔で楽しく演奏する大切さについて学んだ / 自分自身が楽しむことの大切さに気づいた / 楽器を通じて曲を演奏しながら自分らしさを表現する力が身につくことが出来た
	わからない ない、まったくない	
質問5	非常に思う、思う (23)	子どものお遊戯会などをする時に感染対策をどうやってして行くか、どのように保護者へ対応を呼びかけるか / 子ども達と一緒に音楽の活動を実践した時に役立つ誕生日会やクリスマス会の時に楽器を使って演奏を披露する時に役立つ / 音楽の楽しさを伝えていきたいと思えた / 未経験のことでも練習すれば出来るようになる、第二希望だったけどそれが自分にプラスになったから思い通りにいかななくても最後にはこれで良かったと思えるようになるということを学べた
	わからない (6) 思わない、全く思わない	子ども達を目の前にしての演奏が出来なかった / 楽器を持っていないから / 自信にはつながる
質問6	とても良かった、良かった (9)	無観客ではあったし対策なども大変だったけどみんなとわいわいしながらすごく楽しかった / コロナ対策で他のオペレッタ、ダンスの発表を見ることができなかったのは悲しいですがアルカスで本番を迎えることができたのでよかったですと思います / 無観客であったからこそ、どうすれば楽しめるのか意識できた / 映像を届けるのはいいと思ったけど、やっぱり園児の前でしたかった / 緊張せずに自分たちが楽しめたからよかった
	普通 (11) 良くない、非常に良くない (9)	皆で作上げたものを見て欲しかった気持ちと、コロナが広まっている中で演奏会ができた喜びと両方ありました / お客さんはいなくて寂しいつどいとなったが、成果を発表することができてよかった / 子ども達がいなかったのであまり本番という感じがしなかった / 程よい緊張の中でできた モチベーションが低かった / 無観客は正直、寂しかったです。そのために頑張って練習してきたのに対して思いましたが、精一杯画面の向こうにいる子どもたちや保育者の方に熱意は伝わったかなと思いました / 子どもたちに会場で楽しんでほしかった

*各質問毎の()内の数字は、有効回答数29に対するの内訳

要な中、協力しあうことに楽しさを見出したという回答も同様に多く見受けられた。質問5については、将来的に自身が就職した際にイベントでの知識の活用についてや、コロナ禍での対応の方法を学んだなど、前向きな回答が多く見受けられた。

「わからない」と回答した者の中には、「子ども達を目の前にしての演奏が出来なかった」と今回幼児の前での発表が出来ず、実際の現場で実践出来るかについて疑問を感じているような回答が見られた。質問6については、表1にあるようにそれぞれの回答に大差は見られず、自由記述でも無観客での演奏に対して寂しさや大変さは感じていたものの、結果的に「楽しかった」や本番を迎えられて良かったという回答が多く見受けられた。否定的な回答では、「モチベーションが低かった」と本来対面での発表

であるものが無観客での発表となり、今後のコロナ禍での無観客を踏まえた発表の方法や授業内での対応を考えさせられるものがあつた。

1.4 まとめ

以上のような考察から、本年度は例年と違い無観客での発表ということで、前年度のリハーサルを観ていて同じように観客や幼児たちとの対面交流をイメージしていた学生たちにとっては多少の物足りなさを感じる者も少なくはなかった。しかし全体としては学びにおいて大きな影響はなく、むしろコロナ禍によって生み出された不便さが彼らの結束力を強めていた。

今回のアンケート集計結果で、作品をつくり上げるのに「苦労した」という学生が9割もいたが、本

活動で学んだことや身に付いたことがあるということに対しては回答者全員が「ある」と回答している。また、本活動が今回だけのものではなく、今後自身が指導、保育者となった際に役に立つと感じ、本活動で学んだことを活かしていきたいという意欲も、学生たちの学習意欲の向上へ繋がった要因とみられる。吹奏楽は未経験者にとって敷居の高いジャンルと捉えられがちであるが、その難しさがかえって充実感や達成感をもたらしていることも明らかとなった。今回は無観客での発表となり、やはり目の前で観客の反応が見たかったという学生もいたので、今後は授業でより充実した話し合いの場を設け、どのような発表の形式でも、学生全員が「良かった」と思えるステージ構成の手立てを考えることを今後の課題としたい。

2. ダンスの検証

2.1 本年の活動の様子

ダンスは、例年コミュニケーションスキルの向上のために人と関わるような身体活動を行うが、今年はコロナ禍のため個々に行える身体活動のみを基礎トレーニングとして実施した。創作活動においても、できるだけソーシャルディスタンスを保てるような振付を心掛け、仲間と接触する動きを避け、掛け声も控えるように指示した。また活動中は、練習場所が狭く密になりやすかったため、窓を全開にし、休憩を多く取り入れて、換気を行うことを徹底した。つどい前日のリハーサルでは、感染対策でホールの使用時間が例年より短くなったため、ダンス独自で別のホールの舞台を借りて練習時間を確保した(写真2)。

本番の舞台では、ダンスは声を出さないこと、人との距離が保てることを理由に、マスクをつけずに踊ることが許可されたため、生き生きとした表情で踊る学生の姿が披露でき、コロナ禍でも遜色ない舞台発表であったと感じられた。

2.2 アンケート(ダンス)の集計結果

表3に「音楽と動きのつどい」の活動後に実施したアンケート(ダンス)結果について示す。質問1つどいの経験については、「とても良かった」68%、「良かった」29%、「普通」3%と回答していた。質問2自身の活動(4~11月)については「とても良



写真2 リハーサルの様子(ダンス)

かった」17%、「良かった」52%、「普通」31%であった。質問3作品をつくりあげるまでは、「とても苦労した」26%、「苦労した」60%、「普通」14%であり、8割以上が苦労したという回答であった。質問4活動や発表を通して学んだこと、身に付いたことについては、「たくさんある」51%、「ある」49%であり、「わからない」、「ない」などの回答はなかった。また、質問5活動と発表が今後の役立つかについては、「非常に思う」34%、「思う」66%で「分からない」、「思わない」などの回答はなかった。質問6コロナ対策および無観客のつどいについては、「とても良かった」6%、「良かった」37%、「普通」51%、「良くない」6%であり、開催に否定的な意見より肯定的な意見の回答数が上回っていた。

2.3 考察

表4に上記のアンケート(ダンス)の各質問に対する回答毎の記述内容(類似する内容はまとめて表記する)を示し、その記述に基づいて考察をおこなう。

質問1の良かった理由で最も多く使われていた言葉は、「楽しかった」であった。しかし、「大変だったけど」や「難しかったけど」などに続いて「楽しかった」が使われており、楽しいだけではない経験であったことが読み取れた。質問2では、他の回答に比べ「とても良かった」の割合が少ない結果となった。その理由として、「コロナ」と「実習」という言葉が多数あげられ、「詰め詰めだった」、「バタバタした」、「余裕がなかった」といった心境が影響していたと考えられる。質問3では8割以上が苦労し

表3 アンケート（ダンス）結果

質問内容	回答	回答数	%
1、つどいの経験はどうでしたか	とても良かった	24	68
	良かった	10	29
	普通	1	3
	良くない	0	
	非常に良くない	0	
2、つどいの活動（4月～11月）はどうでしたか	とても良かった	6	17
	良かった	18	52
	普通	11	31
	良くない	0	
	非常に良くない	0	
3、作品をつくりあげるまではどうでしたか	とても苦労した	9	26
	苦労した	21	60
	普通	5	14
	簡単だった	0	
	すごく簡単だった	0	
4、つどいの活動、発表を通して、学んだことや身に付いたことなどがありますか	たくさんある	18	51
	ある	17	49
	わからない	0	
	ない	0	
	全くない	0	
5、つどいの活動、発表の経験が、今後役に立つと思いますか	非常に思う	12	34
	思う	23	66
	わからない	0	
	思わない	0	
	全く思わない	0	
6、あなたにとって本年度のつどい（コロナ対策、無観客でのつどい）はどうでしたか	とても良かった	2	6
	良かった	13	37
	普通	18	51
	良くない	2	6
	非常に良くない	0	

有効回答数 35

たと答えていて、その理由として最も顕著なものが「ダンスを覚えること」であった。「振りがたくさんあった」、「難しい振付もあった」など個人の技術的な問題が「苦労した」要因であったと指摘できる。その他には、グループの意見をまとめる難しさ、いざこざがあったことなどが理由にあげられていた。質問4,5は肯定的な意見のみの回答となった。特に、質問4の学んだこと、身に付いたことに関しては、個々にその理由が述べられており、本授業から様々な学びを得ていたことが明らかになった。具体的には、「友達とのコミュニケーション」、「仲間のいることの良さ」のように多くの時間をかけた創作活動から学び得たものと、「自信がついた」、「達成感」、「感動を味わったから」、「普段できない経験が出来たから」のように舞台発表という体験を通して学び、身につけられたものの両方の成果があげられていた。このように、個々がそれぞれに、創作活動や舞台発表から多くの学びや身に付いたことを省察できたことが、問5の肯定的な回答に繋がっていったと考えられる。問5の記述内容からは、創作過程で苦労し、舞台発表で不安になった時に、このような経験や体

験が今後の自分に必要であり、役立つと考え局面を乗り越えていた学生の内面が読み取れた。問6のコロナ禍での無観客の舞台については、「寂しかった」、「残念だった」といった意見はあるものの否定的な意見はわずかであり、学生の大半が状況を理解して賛同し、積極的に参加していたことが明らかになった。

2.4 まとめ

以上のような考察から、本年度はコロナ禍で授業開始も延期され、無観客になるなど懸念されることの多いつどいとなったが、学生の学びに大きな影響はなく、充実した活動になっていたとまとめられる。それはさまざまな感染対策への配慮と共に、学生自身の学びの意欲に要因があったと分かった。そして、その学生の学びの意欲の源は、保育者になった時にこのような経験が必要であり、役立つと理解していることであった。

つどいの経験を、約3割の学生が「とても良かった」と回答できていなかったが、それは、楽しいばかりではない「大変さ」、「難しさ」が原因であったと指摘できる。そのような「大変さ」や「難しさ」が保育者になった時に役立つと該当学生が捉えていることも明らかになったが、一方で「大変さ」や「難しさ」が受講意欲を消失させ、学びの姿勢を消極にする要因になっていたのも確かである。全学生がつどいの経験を「とても良かった」と思えるためには、ダンスが苦手な学生への技術的なサポートおよび円滑なグループ学習のための支援が必要であり、そのための具体的な手立てを考えることを今後の課題としたい。

表4 アンケート（ダンス）の各質問に対しての回答毎の記述内容

※類似する内容はまとめて記載

	回答*	記述内容
質問1	とても良かった、良かった (34)	他のクラスと交流ができたから / 全員で最初から考え作りあげるものだから / 思い出に残るから / 楽しかったから / いろいろなことを学ぶことができた / 達成感があった / グループのメンバーと仲を深められたから / 大好きなダンスができたから / みんなで教えあったりして楽しく練習できた / 苦手なことに挑戦できた / 第1希望でできたから / 観客がいる時とはまた違った経験ができたから / 子どもたちがどんな風にしたら楽しめるのか考えることができた / 貴重な経験だった / これから自信に繋がると思う
	普通 (1)	友達がいいた
	良くない、非常に良くない	
質問2	とても良かった、良かった (24)	みんなと協力してできた / 練習する期間がちょうど良かった / コロナで練習する期間が短かったけど、みんなが一生懸命取り組んだので完成できた / 対面でできたから / 練習時間が多くとれていたから / 思うように進まなかった / グループの人と仲良くなれた / ダンスを覚えるのは苦手だったけど友達や先生がたくさん教えてくれた / 振付を覚えたり、大きく表現する練習をすることが大変だった / 今まで交流なかった人と関わることができた
	普通 (11)	コロナで時間がなかったため / グループ編成が思っていたのと違ったから / 詰め詰めだった / 途中で実習を挟んだためダンスを忘れた / 忙しかった
	良くない、非常に良くない	
質問3	とても苦労した、苦労した (30)	ダンス未経験で思うように動けなかったから / 覚えるのが苦手だったから / 意見をまとめるのに時間がかかった / 振りがたくさんあった / たくさん考えた / いざこざが少し起きたから / 何回も同じところを練習したり、忘れていたのを思い出すのが大変だった / 大人数で一つのものをつくり上げるため / 教えたりするのが大変だった / 難しい振付もあった / 忙しかった
	普通 (5)	ダンスを覚えるのが大変だった / 練習すれば大丈夫 / 服や振付なども特異な分野の人がいて必ずスムーズに進められたから / みんなと楽しく作り上げられたから / そこまで苦労はしていないから
	簡単だった、すごく簡単だった	
質問4	たくさんある、ある (35)	自信がついた / 達成感 / 友達とのコミュニケーション / ダンスの基本はもちろん人間関係についても学ぶことができた / 努力・協力 / 踊ることの楽しさ / 仲間がいることの良さ / 誰かに見せる方法 / 感動を味わったから / 意見を出すことの大事さが分かった / 人前で表現する力がつきました / 踊れるようになった / 他のクラスの人達とも仲良くなれるきっかけになった / ダンスの楽しさを知れた / 普段できない経験が出来たから / リズムのとおり方や表現力 / 自分の意見を言って内容を構成すること / アイデアを出す力が身についた / 諦めない心 / 表現することの楽しさ / リーダーとして周りを見て進めていくことの必要性 / 表情で楽しさを伝えること / リーダーとしての責任感 / 周りと合わせる力 / 体を動かすことの楽しさ
	わからない	
	ない、まったくない	
質問5	非常に思う、思う (35)	アイデアを出すことが発表会や運動会で使えそう / 子ども向けのダンス / 就職後の人間関係に役立つ / 人前ですること、努力すること、協力することなどこれから役に立つことばかりだから / 保育士は人前にたって何かすることが増えてくるから / 子どもたちと一緒にダンスをする時の方法の参考になったから / 保育者になった時にダンスの楽しさを思い出しながら教えられるから / みんなで1つの目標に向かって努力することは職場でもあると思うから / 積極的に発言できるようになった / 表現力が子どもに教える時役立つ / 自信がついた / 話し合い、聞く力 / ダンスの動きが分かった / お遊戯会や運動会の参考になる / お遊戯会などでどのような点に注意すべきか分かったから / 子どもたちに教えられる / 仲間と共に作り上げる楽しさが今後に生かせると思う / これかもダンスを踊りたいなと思えたこと / 元氣よく踊れるようになったこと
	わからない	
	思わない、全く思わない	
質問6	とても良かった、良かった (15)	子ども達も来れず寂しかったですがこれで大正解でした / 寂しかったけど感染対策ができていたから / 舞台できてよかった / 換気がされていた / ダンスは大きな感染対策がなくあまり支障がなかったから / 無観客でもカメラの前の人達に伝えられることを意識できた / あまり緊張せずに踊ることができた / この状況では良かったと思う / ほどよい緊張感があった / 練習時間をずらしたりして密にならないように対策されていた
	普通 (18)	子ども達の反応を見たかった / 他のグループの発表も見えたかった / 寂しかった / 子ども達の前で踊りたかった / 子どもたちが喜んでくれたか気になる
	良くない、非常に良くない (2)	子どもの反応を見たかった

*各質問毎の（ ）内の数字は、有効回答数35に対する内訳

3. オペレッタの検証

3.1 本年の活動の様子

本年度はコロナの影響で、オペレッタの授業はおよそ1ヶ月遅れて始まった。途中で実習を挟む事もあり、11月の発表に間に合うのかどうかという不安はあったが、学生にとってこの経験は必要だという教員の強い思いで、アルカス SASEBO（以下『アルカス』と略称する）での本番が実現した。期間が短いという不安はあったが対面での授業が確保されていたので無観客ながらも、無事発表することができた。

通常は演目が決定したら、25分間に短縮するための選曲から始めるのだが、今年は対面授業ができなくなる不安もあったので、以前に編集した作品をそのまま使うことにした。しかし授業外の制作（衣装、小道具、大道具）や自主練の時間の確保が難しく、苦勞した面があった。又練習中はマスクを着用し、常に窓を全開にして行った。本番も合唱時は歌えるマスク³、ソリストはマウスシールドを付けて発表するなどコロナ対策を行った。



写真3. 本番終了後の様子（オペレッタ）

3.2 アンケート（オペレッタ）の集計結果

表5に活動後に実施したアンケート（オペレッタ）結果について示す。質問1つどいの経験については、「とても良かった」86%、「良かった」14%と全員が前向きに捉えてくれていた。質問2については、「とても良かった」33%、「良かった」43%、「普

通」24%と肯定的な回答が過半数であった。質問3作品を作り上げるまではどうでしたかについては、「とても苦勞した」33%、「苦勞した」43%、「普通」24%と苦勞した学生が過半数を占めている。質問4つどいの活動発表を通して、何か学んだことや、身についたことなどあったかでは、「ある」52%「たくさんある」48%と全員があるという事であった。質問5つどいの活動、発表の経験が今後役に立つかについては、「非常に思う」62%、「思う」33%、「わからない」5%という回答であった。

表5 アンケート（オペレッタ）結果

質問内容	回答	回答数	%
1、つどいの経験はどうでしたか	とても良かった	18	86
	良かった	3	14
	普通	0	
	良くない	0	
	非常に良くない	0	
2、つどいの活動（4月～11月）はどうでしたか	とても良かった	7	33
	良かった	9	43
	普通	5	24
	良くない	0	
	非常に良くない	0	
3、作品をつくりあげるまではどうでしたか	とても苦勞した	7	33
	苦勞した	9	43
	普通	5	24
	簡単だった	0	
	すごく簡単だった	0	
4、つどいの活動、発表を通して、学んだことや身に付いたことなどがありますか	たくさんある	10	48
	ある	11	52
	わからない	0	
	ない	0	
	全くない	0	
5、つどいの活動、発表の経験が、今後役に立つと思いますか	非常に思う	13	62
	思う	7	33
	わからない	1	5
	思わない	0	
	全く思わない	0	
6、あなたにとって本年度のつどい（コロナ対策、無観客でのつどい）はどうでしたか	とても良かった	2	9
	良かった	5	24
	普通	12	57
	良くない	2	10
	非常に良くない	0	

有効回答数 21

質問6のコロナ対策、無観客でのつどいはどうでしたかの回答は、「とても良かった」9%、「良かった」24%、「普通」57%、「良くない」10% だった。

3.3 考察

表6に上記のアンケート（オペレッタ）の各質問に対する回答ごとの記述内容（類似する内容はまとめて記載）を示し、その内容について考察を行う。

表6 アンケート（オペレッタ）の各質問に対しての回答毎の記述内容

※類似する内容はまとめて記載

	回答*	記述内容
質問1	とても良かった (18) 良かった (3)	皆で協力してできた / コロナ禍でしかできない経験ができた / 学校の行事でなければ、できなかった / 子供たちはいなかったが、自分が心から楽しむことができた / みんなで一致団結して作った作品だったので、満足した / 思い出になった / コロナでできないと思っていたが、できて良かった
	普通	
	良くない、非常に良くない	
質問2	とても良かった (7) 良かった (9)	大変だったが、楽しかった / マスクをして歌わないといけなかったりと、大変だったが、その中でもできる範囲で対応してしっかり活動したと思う / 時期的には、良かったと思う / 楽しく取り組めたから / 時間が足りず忙しかった / 長い時間をかけてできたものだったから / 小道具や大道具に取り掛かるのが、少し遅かったように感じた / もう少し時間が欲しい
	普通 (5)	実習が長引き、バタバタだったから / 思い出になった / ギリギリ迄訂正したり、道具の準備が遅かったから
	良くない、非常に良くない	
質問3	とても苦労した (7) 苦労した (9)	費用などの面を考慮した / ピアノ伴奏を頑張った / 壁面構成や衣装や道具の準備がギリギリまでかかったし、通してもミスする場面があった / ソロをうたうのは楽しいが、音程を何度も確認したりして緊張した / 小道具、歌、衣装、振り、セリフと準備がたいへんだった / それぞれの意見をまとめるのが大変だった / 動きを覚えるのが大変だった
	普通 (5)	マスクをしても発声練習やセリフは声が出しづらくて大変だった / ちょっと時間に余裕がなかった部分もあるが、みんなと協力することができてよかった
	簡単だった、すごく簡単だった	
質問4	たくさんある (10) ある (11)	仲間がいたからできた / 自由に楽しく表現したり、アイデアを出し合ったこと / 歌い方 / 舞台度胸 / 大勢の前で何かをするときの緊張しない方法 / 友達と協力することの大切さや、楽しさ / 人前で、練習してきた成果を出せた時の達成感 / 子供たちにも楽しんでもらえることを考えて、取組むことができた / みんなで協力して一つの作品を作ってゆく力が身についたし、自分の役を最後まで演じる力が身についたと思う / 一人でも気持ちが違うと全体が乱れると感じた / 協調、アイデアを出すことの難しさ
	わからない	
	ない、まったくない	
質問5	非常に思う (13) 思う (7)	保育現場で、何かを成し遂げるために、大切なこと、(自分から考えて、意見を言ったり、協力し行動するなど) を学べた / 保育現場でも、人前に立って話したり、表現したりするから / お遊戯会などに役立つと思う (発表会に向けてどのように進めることができるか、他と協力し、役割分担してゆくか等) / 子供たちの前で演じることで、子供たちも真似してくれると思うから / 恥ずかしさを捨てて、見てもらおうという気持ちが出てくる。大勢で協力し、役割分担しながらやってきたので、誰とも協力出来る
	わからない (1)	わからない
	思わない、全く思わない	
質問6	とても良かった (2) 良かった (5)	無観客でも、自分たちの練習の成果を発表できたことは良かった / コロナ対策をしていたから / 観客がいなくてやる気が出ないかと思っただけ、全然そんなことはなく、とてもいい経験になった / 子供たちの表情を見て発表することはできなくて残念だったが、子供たちに楽しんでもらいたいという気持ちは変わらないので、ビデオの中でつたえることができたと思う / 子供が目の前でリアクションしてくれてと思って、全力を出し切ることができた / 人に見せたいという気持ちはあったけど、あまり緊張しなかった
	普通 (12)	コロナ禍で出来る、最大限の形だと思ふ / LIVE でしたら、もっと盛り上がったのではと思う / 皆に見て欲しかった / 無観客は反応がなく寂しい感じもしたが、集大成という事で、やる意義があったと思う / 仕方のない事ではあるけれど、子供の反応を直に見たかった / 普通だから / 特に何も
	良くない (2) 非常に良くない (0)	子供たちが実際に見てどのような反応をするか知りたかったし、コロナで仕方がないが、子供たちの前で披露したかった

*各質問毎の()内の数字は、有効回答数21に対するの内訳

質問1では、みんな協力して最後(発表)までできたという理由が大多数を占め、次に活動自体の楽しさが多かった。又コロナ禍でもできた、コロナ禍でしかできない経験ができたという意見もあり、試行錯誤しながらも本番をアルカスという大舞台で行えた事が、このような結果になったと考えられる。質問2では時間がなくて大変だったが、楽しかった、良かった、という意見が多く見られた。又、制作に取りかかる時間が遅かったという意見があった。指導者の中に、学生自身が作品の全体を把握してからでないと必要な衣装や大道具、小道具は出来ないという思いがあり、どうしても制作は後半になってしまう。又全員に舞台の表も裏も経験して欲しいという思いもあり、このような結果になってしまった。時間との兼ね合いが今後の課題であると思う。質問

3では、やはり時間がない中での制作や自分の役をマスターするまでの苦労を挙げている人が多い。そんな中で費用面を考慮したという回答は、コロナ対策の為「歌えるマスク」を指導者が購入した為である。他にリーダーとしてまとめるのが大変という意見がでていた。リーダーになってやる気をなくす者もあり、指導者としてどうかかわればよいのが今後の課題である。質問4の学んだ事では技術的なものもあったが、みんな協力することの大切さがいちばん多く、創り上げた達成感、表現する楽しさというのが次に続いた。又アイデアを出し合う事の難しさや楽しさも学ぶことができ、このような学びはこれからも数多く経験させたい事である。質問5では21名中20名が役に立つと感じている。具体的には表現力や、度胸と並んで、各グループでの話し

合いや活動によって培われたコミュニケーション能力、協力的な行動、仕事の段取りの経験が多かった。本番に向かって試行錯誤し苦勞した結果、自分一人ではできないことも、みんなの力を出し合うことによって1つの作品が出来上がるという事への気づきが、次への力になったという回答に至ったと考えられる。質問6で、「普通」と回答した中には、観客がいなくて寂しくはあったが、やる意義があった。「良くない」の中には、子供たちの前で披露したかった。また自由記述では、色々な行事がなくなる中で、つどいが開催出来たことがとても嬉しかった。「(題材にもよるが)、アクリル板で囲いを作り、それぞれの囲いの中で表現するのも面白いのではないかと思った」という感想もあった。

3.4 まとめ

このようにアンケートから学生たちの得たものはかなり大きい事が分かった。例年より取り組み期間は短かったのだが、コロナ禍という状況がよい緊張感を生み出してくれ、積極的に協力する姿勢がみえ、作業への取り組みはスムーズであった。衣装係が困っている時に、小道具係が積極的に助け、良い雰囲気になる場面もあった。制作や役の練習が苦しかった分、この活動から得たものは大きかったのではないかと考えられる。多少の寂しさはあったものの、無観客でも発表できた喜びや、達成感を感じた学生が大勢いた(写真3)。やはり、アルカスでの発表は学生にとって重要であったと考えられる。

アクリル板の囲いを用いた演出やライブ配信など、学生たちのアイデアで構築された、コロナ禍でもできる「つどい」へと発展させる事を次への課題としたい。

4. 結語

以上から本研究の結論は以下のようにまとめられる。第1に、コロナ禍でさまざまなことが懸念された本年の授業であったが、その困難な状況が、学生の結束力や意欲を高め、積極的な姿勢を助長していたと明らかになったことである。また、第2にアルカスでの発表がコロナ禍の影響で無観客になり寂しさや物足りなさを感じたものの、他には替え難い貴重な学びの場になっていたと分かったことである。よって、コロナ禍ではあったが、総合保育技術の授

業の意義や目的が達成されていたとまとめられる。

現在でもコロナ禍は収束しておらず、集団での学びが主となる吹奏楽、ダンス、オペレッタの活動が今後も制約されることは、感染予防の観点から考えると、避けられないだろう。しかしながら、該当学年の学生にとっては、どんな状況であっても、1回しか経験できないかけがえのない「つどい」である。コロナ禍において総合保育技術の授業での学びを保証するためにはどのように指導していけば良いのか、引き続き検証していきたい。

引用参考文献

- 佐々木友里・葛谷潔昭(2016)「保育者養成におけるオペレッタ創作の効果～社会人として求められる能力の獲得の可能性について～」『豊岡短期大学論集』No13、pp.187-194
- 友廣憲子(2019)「第34回 幼児のための「音楽と動きのつどい」～学生・観客のアンケート調査より～」『長崎短期大学紀要』第31号、pp.77-83
- 友廣憲子(2020)「第35回 幼児のための「音楽と動きのつどい」～学生・観客のアンケート調査より～」『長崎短期大学紀要』第32号、pp.91-97
- 林洋子他(2008)「表現活動の実践力育成に向けての取り組み－実技発表会の開催を通して－」『佐賀短期大学紀要』第38号、pp.155-166
- 三好優美子他(2018)「総合表現(創作オペレッタ)における表現科目の連携:「音楽」「造形表現」「身体表現」の観点から」『東京女子体育短期大学紀要』第53号、pp.47-62

¹ これまでの通常開催では幼稚園や保育所等の子どもたちを招待していたが、コロナ禍であった第36回は、無観客で下記のプログラムで開催した。

主催：長崎短期大学

後援：佐世保市教育委員、長崎短期大学朋友会

出演：長崎短期大学保育専攻2年生

日時：令和2年11月20日(金)10:30～12:35

場所：アルカス SASEBO イベントホール

内容：吹奏楽「はるなつあきふゆ～どれが好き?～」(指導：藤澤明日菜)

ダンス「みんなで踊ろう!アンパンマンメドレー他」(指導：野田章子)

オペレッタ「ふしぎの国のアリス」(指導：

石多加代子)

ピアノ独奏・ピアノ連弾 「ディズニー・ジ
ブリの世界へようこそ」(指導:友廣憲子)

通常開催(第34回、第35回)の様子については友
廣(2019、2020)を参照

² 本研究では吹奏楽は藤澤、ダンスは野田、オペレッ
タは石多が執筆を担当し、指導者の立場から成果と
課題の検証をおこなった。

³ 「歌えるマスク」とは、東京混声合唱団により開発
されたマスクである。飛沫拡散のリスクを低減しつ
つ、一般的な形状のマスクでは困難となる歌唱面
での課題を解消するべく開発された。